

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 修士及び博士学位取得方針と達成学習目標を2010年度中に明文化し、公表する	→公表したホームページ。	D	C	A	A	A
2. 最先端の研究を遂行することにより教育を活性化する。	→科研費やプロジェクト研究への申請及び採択件数。	B	B	B	B	B
☆						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各専攻が、修士および博士学位取得方針と達成目標を明文化して、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学位取得の標準プロセス、および学位申請論文の審査基準をホームページで公表した( <a href="http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education">http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education</a> からリンク)。これらの中で修得すべき学習成果の明示も行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各専攻の教育目標が明確になり、学位審査における透明性も確保された。設定したポリシーや学位取得方針についてその適正性を現在毎年各専攻で協議し大学院委員会で検証しており、教員の意識が向上している。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについては専攻間で視点観点が異なるため研究科としての統一性がない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 上記目標や記述は引き続き見直していく。また、専攻間で視点観点をそろえるかどうかも含めて議論していく。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか。	☆
		研究推進機構が外部資金獲得にむけて申請書の書き方のセミナー開催やプロジェクト紹介を行っており、教員がこれを利用して積極的にプロジェクト資金を獲得するようにしている。また、獲得した資金を原資として雇用した博士研究員の協力により学生への教育を充実させる。さらに、外部研究機関と連携し学生をこれらの機関に派遣して研究させる。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		2013年度の学外研究資金として12件の科学技術振興機構(JST)、1件の新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、48件の科学研究費が採択された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		設定された目標を教育課程の編成へどのように反映するかを各専攻および大学院委員会で検討する。	☆
		その他	
			☆
備考			☆